

2018年度 事業報告

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2018 年 4 月 1 日至 2019 年 3 月 31 日

<目 次>

I. 事業の概要

II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・広報に関する事業
 - 1-1 O P E N c a f é
 - 1-2 E C O もんツアー
2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に関する事業
 - ホームページによる情報発信とネットワークの強化
3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネットワークづくり、情報基盤の整備に関する事業
 - 1-1 天神祭ごみゼロ大作戦(大阪市市民活動助成事業)
 - 1-2 里山農空間保全活動(大阪自然環境保全協会と連携)
 - 1-3 再生バイオマス事業研究(里山倶楽部)
4. ネットワーク
 - OPEN が加盟する団体

III. 総会の開催状況

IV. 理事会の開催状況

V. 会員状況

I. 事業の概要

2018 年度の事業概要

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として 2 つの事業の開始と 1 つの事業課に向けた検討をし、市民参加を促すことでした。

一つには、資源循環型活動と協働による「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」として、広範な市民運動としていくために、大阪市市民活動推進事業の 3 年目の助成を受けました。イベント時におけるごみの分別をすることにより、資源化を増やす、ごみの元を断つためにリユースの推進の実践をしました。日本の三大祭りで来場者が最も多い、大川沿い約 2.2 km の 3 つの公園全域で実施しました。エコステーションを 38 か所設置し、ボランティア延べ約 1,500 名の参加で実践し、ごみ減量に成果を上げることが出来ました。

二つには、都市型農業の重要性と都市の自然環境の保全に向けて、大阪自然環境保全協会と連携した「里山農空間保全の事業」として、大阪府下における水田の耕作放棄地でのマコモダケ栽培の普及と栽培と販売等に成果をあげました。

三つには、都市における再生エネルギーとして、公園、街路樹の選定枝の利活用の検討と行政への働きかけをしました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとして引き続き、行政や事業者、市民協働を進めています。

II 事業の実施状況

1. 天神祭ごみゼロ大作戦 2018

日 時 7 月 24 日(宵宮)、25 日(本宮)

場 所 大川河川敷公園一帯(南天満公園、毛馬桜ノ宮公園)

参加者数 延 1494 名

【事業の目的】

地球温暖化を防止するための個人の活動として、分ければ資源の体験の場をひろめていく。一人一人が使い捨てをやめることで資源は次の世代に引き継がれ、大量消費をやめることで地球温暖化を防ぐ行動になること。日常に発生するごみ問題から環境を良くする活動を通じてコミュニケーション力が深まり、資源を大切にすることが人の命も大切にすることが繋がり、地域の問題を積極的にかかわる人材育成など副次的な効果が得られる。さらに資源循環経済の創造で、新たなコミュニティワークにつながることをめざしていく。

【実施内容】

来場者が、自主的にごみの分別とリユース食器の返却ができるように、エコステーション拠点を 38 ヶ所設置。ボランティア参加者延べ 1,494 名が両日 15 時～24 時まで、ボランティアリーダー 67 名のもと運営した結果、2 年目の実績として、昨年比ごみ減量 13.8 トン(61,330 トン ➡ 47,510 トン)、分別回収量が約 4 倍(988 トン ➡ 3,744 トン、段ボール、ペットボトル・ふたの回収を実践)、リユース食器回収率は 76% (16,000 枚) ➡ 92.9% (17,000 枚) に上がった。

【事業実施の成果】

昨年度の 835 名を大幅に上回る 1494 名の方の属性は、会社員等 76%、大学生・専門学生 10%、

高校生 9%その他 5%。居住地は、大阪市内 27%、大阪府下 27%、府外 46%と府外の方が半数を占め天神祭が日本の三大祭りとしての知名度の高さ所以と考えられる。

ボランティア参加者へのアンケートでは、今回参加の満足度は 72%、不満は 9%で不満の主な理由は、人が少ない時間帯で十分力が発揮出来なかったことを上げている。満足の声は、来場者の協力と感謝の言葉。ボランティアリーダーや他のボランティアの方々とのコミュニケーション、人との接し方など学べたこと。リユース食器の露天商への協力依頼は、当日に直接交渉となるため、コミュニケーション力の高いリーダーの役割りが大きく、露天の人たちからも感謝され、リユース食器の導入への理解度が高まった。さらに、3R や分別、環境問題への関心が高まったこと。ボランティア活動への興味の高まりなどをあげている。来年度の参加意欲は 80%を超えた。

寄付をいただいたお金の使い道は、T シャツ作成費、チラシ・ポスター制作費にあて、広報に役立ち、ボランティア参加者に寄付の大切さを知っていただいた。

【事業執行額】

収益	
大阪市民活動推進助成金	1,000,000
実行委員会 NPO 団体負担金	625,219
収益計	1,625,219
事業費	
人件費アルバイト	943,000
諸謝金	100,000
印刷製本費	655,084
旅費交通費	233,180
通信運搬費	34,928
消耗品費	4,684
車両費	25,928
会議室使用費	94,590
保険料	32,310
支払手数料	1,296
事業費計	2,125,047
実質事業支出計	499,828

< 実行委員会決算 >

経常収益 10,531,143 円

(内ボランティア受け入れ評価益 3,059,011 円)

経常費用 11,942,925 円



エコステーションは長蛇の列



高校生ボランティアは大きな力



リユース食器班は、露店の協力店開拓に大学生ボランティアリーダーのコミュニケーション力が発揮



38ヶ所エコステーションのごみ・各資源物計測班は大阪産大花嶋ゼミ生の力

マコモダケ事業

モダケ水田耕作など里山農空間・生物多様性保全事業

自然環境・生物多様性保全の分野では、「生物多様性の宝庫」とも言われる水田の減少が全国的にも著しいため、里山農空間保全の取り組みを2016年度から始め、能勢町内の水田などで農支援活動をスタート。17年度は放置田畑を活用するマコモダケ（イネ科マコモにできる肥茎）の水田耕作活動へとつなぎ、18年度もこれを継続した。

当年度は、能勢町山内の＜母田＞（ありがとう農園内）におけるマコモダケ水田耕作を引き続き行い、新たに2件・計約800㎡の放置田活用を普及するとともに、母田では約150kgのマコモダケを収穫し約43,000円分を頒布することができた。特に、能勢町内の道の駅「くりの郷」、また一部は「阪急オアシス」（天六店）、さらに豊能町の耕作メンバーは産地直売所「志野の里」にそれぞれ出荷し、普及ルートを拡充する成果を上げた。

課題としては、メンバー・参加者の拡大、母田の維持整備、収穫・保存・頒布の適正安定化などと多数挙げられるが、放置田畑の市民的活用、生態系サービス（農産物）の普及は一步拡充しており、19年度も取り組みを前進させていきたい。

活動実施日・活動内容／延べ約50人参加

4月29日（日）株分け・田植え 豊能町大円棚田から株分けし、ありがとう農園で植付け

7月15日（日）雑草取り・葉っぱ刈り

8月30日（木）マコモ普及作戦＋＜ムシロづくり＞研修

10,11月（木）マコモ収穫

12月4日 2018年まとめ会

3月23日 株起こし・田植え準備

予算額	100,000 円
執行額	75,437 円
謝金	36,137 円
アルバイト料	3,000 円
印刷費（2017年度報告書作成費）	36,300 円
収入	8,000 円
差引残高	32,563 円



ありがとう農園で生育したマコモダケ



収穫したマコモダケと葉っぱ



道の駅「くりの郷」(能勢町)に出荷

木質バイオマスエネルギー活用事業

廃棄物処理されている大阪市内の公園や街路樹などの木質資源を燃料加工しエネルギー活用することで、処理費の削減と共に化石燃料代替による二酸化炭素の削減を図ることを、大阪市公衆浴場組合との協働事業にむけ、実態調査と建設局等の話し合いを進めた。

薪燃料を安価に市内の公衆浴場に提供することで、地域のコミュニティの場や災害時の避難所にもなる多機能な浴場施設の経営を補助できる。また、鶴見緑地内に薪やチップの燃料の常時備蓄として緊急災害時の市内への燃料供給基地として公共施設の場の有効活用の可能性を追求し、燃料加工等の作業には福祉事業としても高齢者や障がい者の雇用の創出等へ展開できるように、環境保全と社会のコミュニティづくりを市民発信をしていく。

(活動経過)

- 4月18日 城東鶴見浴場組合（以下浴場組合）と現状と対策について話し合い
- 5月11日 大阪市建設局へ間伐材処理の現状確認と燃料利用について提案を行った
- 11月19日 浴場組合と方策について話し合い
- 1月11日 大阪市の「鶴見緑地再生・魅力向上計画案」に対するパブリックコメントについて浴場組合と内容を相談
- 1月15日 OPEN から大阪市へ上記のパブリックコメントを提出
- 2月18日 大阪市がパブリックコメントへの回答を HP に掲載
- 2月25日 大阪市環境局へ公園間伐材の利用に関する調査を提案



予算額	40,000 円
執行額	0 円

OPENが加盟する団体（加盟順）

1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境 NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会に NPO として参加

2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に 2004 年に設立。

3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

4. 生物多様性かんさい

COP10 を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

5. 大阪ごみ減量推進会議（2011 年 10 月 1 日設立）

大阪府民環境会議の 3 R 分野のネットワークおよび活動の継続・強化を目指して参画。

6. 大阪びんリユース推進会議（2014 年 2 月 19 日設立）

7. 社会福祉法人大阪ボランティア協会

8. NPO 法人 エコネット近畿

Ⅲ.総会の開催状況

第 15 回通常総会の開催

2018 年 6 月 3 日

エルおおさか

参加者： 16 名

Ⅳ.理事会の開催状況

第 1 回理事会 6 月 3 日／エルおおさか研修室

第 2 回理事会 8 月 30 日／全大阪消費者連絡会会議室

第 3 回理事会 11 月 19 日／シバタビル 3 階フリースペース

第 4 回理事会 2 月 5 日／近畿中国森林管理局内 レストラン「杣」

第 1 回理事会 4 月 25 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

第 2 回理事会 5 月 25 日／全大阪消費者団体連絡会・会議室

V.会員状況

正会員	団体	15
-----	----	----

正会員	個人	7
-----	----	---

賛助会員	団体	0
------	----	---

賛助会員	個人	2
------	----	---